

3 舞鶴市木船家文書・宮津市由良文書調査

長谷川巴南

1. 舞鶴市木船家文書調査

舞鶴市では、2013年から継続して舞鶴市教育委員会・舞鶴地方史研究会などと連携し調査を実施している。2020年度、文化情報学研究室では京都府北部の舞鶴市、宮津市にてそれぞれ文書調査を行い、舞鶴郷土資料館の小室智子氏や舞鶴地方史研究会と共同で、木船家文書調査を実施した。木船家文書は近世・近代の溝尻地区の約1万点の大庄屋文書である。

今年度は、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「海と森の京都の融合による文化観光拠点の形成－舞鶴市東舞鶴地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用－」（代表：横内裕人）の一環として調査を実施した。2020年8・9・11、2021年3月の4回、舞鶴郷土資料館にて調査を実施し、1点ずつ目録を作成するとともに、ラベルを貼り、写真撮影を行った。目録作成と撮影は今後も継続して行う。

参加者は東昇（教員）、有賀陽平、安江範泰（博士前期課程）、竹河果穂（4回生）、安部萌花、正瑞千幸、長谷川巴南（以上、3回生）、鈴木詩織、小島千幸、吉富絵音、藤原あかり（以上、2回生）である。現在、木船家文書を用いてゼミ生と有志の一回生で内容読解も進めている。

2. 由良神社・協公民館文書調査

京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「海の京都」の拠点・宮津市由良の北前船文化の総合調査と活用」（代表：岸泰子）の一環として、宮津市由良にある由良神社の所蔵する文書の調査を実施した。10月31日・11月1日の2日間、由良神社社務所を拠点に、蔵出し、文書群の概要確認、写真撮影を行った。

参加者は東昇（教員）、有賀陽平（博士前期課程）、竹河果穂（4回生）、正瑞千幸、長谷川巴南（以上、3回生）、鈴木詩織、吉富絵音（以上、2回生）である。

10月31日、午前中に加藤正一氏（由良の歴史をさぐる会）の案内により由良地区を巡見し、北前船資料館、如意寺、由良神社、七曲八峠、由良金毘羅神社、岩穴稲荷神社などを見学した。午後からは由良神社にて蔵出し作業を行い、その後文書の写真撮影をした。11月1日は、午前中に協公民館の見学と、所蔵文書の調査を実施した。その後由良神社に戻り、写真撮影を行った。また、神社総代の方を中心に地元への調査報告を行った。

由良神社文書は、近世後期から近代の神社史料である。「軍艦由良」（旧海軍艦艇・軽巡洋艦）への分祀に関する史料など興味深いものが多くあった。調査時間が限られていたため、筆筒の引出7つ含め、10箱に及ぶ大量の史料の現状記録を行い、概要を調査し、現在、概要目録を作成中である。

特に箱4内の「御寄附状」は万延元年（1860）に京都の隋心院（現京都市山科区）から、由良神社に隣接する如意寺への寄付が記されていた。永浜宇平著の『言行三束』によると、明治21年（1888）、京都市上京区上御霊神社内の花御所八幡宮から、由良の熊野神社へ合祀されて由良神社へと改称したとされており、京都市内と由良の関係をより一層うかがうことができるだろう。

大正12年（1923）6月に軽巡洋艦由良の乗船員一同から由良神社へ送られた奉納証文とその付書には、堂々とした「軍艦由良」の艦印が押されている。同年に由良神社から軽巡洋艦由良に、いわゆる艦内神社として分祀がなされており、神社と艦艇の交流のやり取りが分かる史料である。



写真1 発見された軍艦由良関連文書



写真2 由良神社での蔵出しの風景